

窯業同窓会会報

(2003. 8)

目次	窯業同窓会 15年度総会 2003.6.13.(金)	p.1
	山内先生を偲ぶ会 2002.10.21.	p. 8
	東海支部活動報告	p.10
	行事報告 大倉陶園見学記 2002.3.1.	p.10
	窯業同窓会規約 2003.6.13. 改正	p.12

窯業同窓会 15年度総会 2003.6.13.(金)

総会が大学南7号館2階講義室で開催されました。参加者約80名

講演会 15:00～17:00 (下記参照)

総会 17:10～18:20 詳細は下段に掲載してあります

開会の辞 鶴見教授

物故者への黙祷

会長挨拶 鈴木会長

各賞の受賞者紹介

優秀学士論文の表彰

卒業50周年記念品贈呈

規約の改定

鈴木会長から学年幹事制度の創設など趣旨説明があり異議なく承認されました。

平成14年度事業報告

平成14年度決算報告 山内幹事から報告され、承認されました。

平成15年度事業計画と予算 鈴木会長から趣旨説明があり、予算案は異議なく承認されました。

新役員の紹介

その他

予定行事終了後、石原 幸正氏から同窓会の名称変更を検討するようご提案がありました。学科も窯業から広い意味の無機材料に変わっており、同窓会の名称も時代にあった名称にして若い世代の方々もなじめるような同窓会にしたいというご趣旨です。これは役員会で検討することになりました。

閉会の辞 鶴見教授

総会記念撮影



懇親会 18:25～19:40

出席者全員の記念写真撮影後、講演会講師、先生方を囲み、或いは旧知、旧友が集まりに歓談に移りました。

卒業50周年
出席者記念撮影



講演会 柴田修一教授の司会で始められた。

顧客のニーズ・シーズにもとづく新製品開発

ー QFD (品質機能展開) とナレジマネジメント

朝日大学 大学院教授 赤尾 洋二 氏

(アメリカ品質学会 2001年最高荣誉金賞受領)

これからの技術者に何を期待するか

トヨタ自動車(株)第5開発センター 荒川 健二 氏



赤尾 洋二 氏



荒川 健二 氏



講演会会場

物故者 2002-2003 年にかけて亡くなられた同窓会会員です。(同窓会事務局で把握した方)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員番号	ご氏名	ご逝去年・月			
194101	赤沢 次男	2002年9月	195006	鈴木 正義	2002年8月
194213	田中 廣吉	2003年1月	300045	小松 和蔵	2002年9月
194310	田端 精一	2003年3月	300222	浦部 和順	2003年5月

会長挨拶 (要旨)

同窓の皆様、毎日お元気にそれぞれの場所で精一杯ご活躍のことと推察いたします。いっこうに好転しない景況の中で、私は3年前に伝統ある本同窓会の代表をお引き受けして以来、熱心な先輩や役員、幹事諸君に支えられ、指導を受けつつ専心努力して参りましたが、就任時に表明した同窓会の活

性化はなかなか達成出来なくて、このままでは同窓会の存在の意義すら失われて行きかねないと心配になったこともありました。

しかし昨年度は関東支部が設立され、見学会を何度も催すなど、役員・幹事と謀り分担して種々の試行をした結果、やっと改革の萌芽が見えはじめた感じです。今年度はそれを確実に根付かせ、盛んに成長させてゆきたいと祈念しています。

ここで最近の状況を簡単に報告するとともに、計画中の案件を説明し、総会における挨拶と致します。



(1) 会員名簿発行の延期 母校では独立法人化やCOE

の入選・応募などにより学内組織の再編など先生方は極めて多忙で、名簿発行は明年度以降に延期することになりました。

(2) メーリングリストの開設と充実 担当幹事のご尽力と藏前工業会(藏前ネット)のご支援でスタートし、多くの同窓からの提言や情報の交換が相互に、迅速に行われるようになりました。HPの活用と平行して会誌の代替にもなりますので、登録者を倍増して一層の充実を図りたいと願っております。

(3) 全会員平等サービス 会員は全国何処でも何時でも、老若男女を問わず、平等の権利としてサービスが受けられるべきと考えて、

学年幹事制度 教官の推薦を頂いたりして取り敢えず昭和36年から昭和58年までの各学年卒業代表者にお願ひし、快く引き受けて頂きました。今後の同窓会活動の中心となると期待しております。

地方との連絡の強化 地方支部の行事には出来る限り支援する。また支部長らが総会や役員会に出席する旅費を支給するなどを2月の役員会で審議しました。次年度から実行いたします。

(4) 新行事計画 総会以外にも少なくとも年1回、講演会、懇親会を藏前工業会や地方とも協力し、教官も加わって多くの会員に役立つ行事を催したい。

以上簡単に述べましたがデジタル情報革命が20年前に米国で起こり、我が国でも急速に普及し、今や経営、行政、教育、研究その他に計り知れない効果をあげつつあります。同窓会活動にも積極的に取り入れて行きたいと考えております。

なお、説明しました同窓会の活性化を積極的に推進するため、20年振りになります同窓会規約を見直し、予算の提案をしております。

方向だけでも明確に定め、強固なプラットフォームを作るべく努力します。会員諸賢のご理解とご協力をお願いします。

各賞の受賞者紹介

石黒 隆 (S58博 太陽誘電) 第1回中島平太郎賞

石山 新太郎 (S56修 日本原子力研) 米国機械学会 (ASME) 2001Beet Paper Award
炭素材料学会技術賞

井上 悟 (S52修 物材機構) セラミックス協会学術賞

尾花 博 (S48卒 太平洋セメント) セラミックス協会技術賞

鈴木 利昌 (H6修 太陽誘電) セラミックス協会学術奨励賞

鈴木 弘茂 (S21 東工大名誉教授) 石川カーボン賞

鶴見 敬章 (S60博 東工大) 米国セラミックス協会フルラス賞

渡部 俊也 (S59修 東大) 日経 Biz Tech 賞

賞の紹介

中島平太郎賞 任意団体「CDs21（シーディーズニジュウイチ）ソリューションズ」が日本で初めて音のデジタル化に成功した、「CDの父」である中島氏（1944 東工大電気）の名にちなみ創設、CDメディアの開発研究から普及促進まで、社会的に貢献した個人、企業、団体などに授与。

石川カーボン賞（財）石川カーボン科学技術振興財団がC系材料などの新材料開発における基礎的、実際的および学際的研究に著しい成果を挙げた研究者を顕彰する。毎年10月に経団連会館で表彰式と記念講演を開催。

フルラス賞 カリフォルニア大学教授であった Richard M. Fulrath 博士を記念して作られた米国セラミックス学会の賞である。日本および米国の45歳以下の研究者の中から毎年数名が選ばれ、同学会の年会で賞状及び賞金が授与される。

日経BP・BizTech 図書賞 技術と経営の進歩や発展に役立つ優れた図書を表彰する日経BP社の表彰制度のひとつで、2001年に創設したもの。受賞図書の著者には表彰状と賞金を、出版元には盾が贈呈される。

優秀学士論文の表彰

古嶋 亮一 君 「バイオミネラリゼーションを用いた多孔性材料の開発」

長谷川 史一君 「電気泳動推積法によるステンレスメッシュ上のアルミナコーティング」



卒業50周年記念品贈呈

今年で卒業50周年を迎えられた方は次のとおりです。心よりお祝い申し上げます。

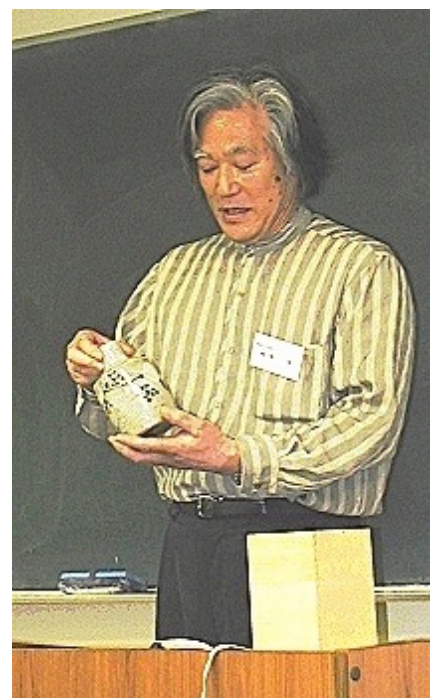
（敬称 略 太字＝出席者）

荒木 繁蔵、今泉 登喜次、沖 和男、**桑山 則彦**、今野 太三、**坂野 義郎**、**桜井 宣隆**、須藤 育雄、**田代 楠熊**、**中川 邦好**、**中村 紀夫**、中村 義彦、新村 年康、野木 平八郎、野口 昭男、日浦 致、平田 徳蔵、**福崎 福七**、福代 喜十、藤本 章一郎、堀江 勲、**堀江 鋭二**、松本 哲雄、宮崎 陽允、柳 正光、安竹 了和、安永 暉義、**矢島 一治男**、**山本 博孝**

益子在住の陶芸家 村田 浩氏（写真左＝昭和43年卒）から記念品を説明して頂きました。

絵刷毛目山帰來文花入

絵刷毛目とは益子の伝統的手法の一つで白い粘土を刷毛で生地に塗り、その筆跡を残すように焼成温度を下げるなど気をつ



かって作ります。山帰來とは別名さるとりいばらと言いまして村田氏のモチーフです。

会長から一人ひとりに記念品を贈呈され、代表して桑山さんが謝辞を述べられました。

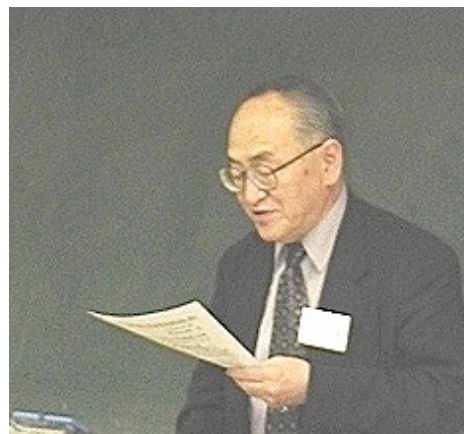
後刻、さるとりいばら一筋について尋ねましたら村田さんはサルトリイバラがどんどん成長して変化に富み極まりないとのことでした。

平成14年度事業報告

全般：鈴木会長から学年幹事制度と規約改正作業、山内先生を偲ぶ会、見学会など全般の説明

関東支部：尾島支部長から配布したレジメに沿って説明。更に中沢先輩の米寿のお祝いについてお誘いがありました。ほかに 2002.8.2.蔵前旅行会との共催で王禅寺、ミサワホーム・モデルハウスを見学、近代建築、住環境の説明を受けました。）

東海支部：清家支部長から昨年度は 10 月に鈴木会長をお迎えして 43 名が参加して支部総会・懇親会を開催した。先日の 6/10 に役員会を開き、同窓会のあり方など話しあい、今年度の行事計画を策定中で 10 月に総会の予定。



関西代表：堀江鋭二氏(蔵前工業会大阪支部長)から支部としての活動はないが関西午餐会、講演会などで名前を列挙されて寮業の同窓生が多数積極的に活動されていることが報告されました。また 7/1、第 551 回の関西午餐会に中沢先輩から民芸の源泉の人「浅川伯教・巧兄弟」のお話を伺うことにしております。

学内の状況報告：鶴見教授から OHP を使われて組織・規模、新任教授の紹介、秘書室の設置、170 名の学生の配置、卒業生の進路、来年度の独立法人化に供え大幅な組織変更(案)の説明、



清家氏



堀江氏



鶴見教授

COEに選ばれた「産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成(リーダー細野教授)」の態勢、新しいタイプのイノベーション・リーダー育成を目指すプロジェクト・マネージング・コース、などについて説明されました。母校の大きな、力強いうねりを感じました。

無機材料工学科職員の職員配置

専攻名(講座名)	研究室名	教授	助教授・講師	助手
材料工学：無機機能材料	水谷・篠崎	水谷 惟恭	篠崎 和夫	脇谷 尚樹
材料工学：無機機能材料	鶴見・和田	鶴見 敬章	和田 智志	掛本 博文

材料工学：無機機能材料	連携	田中 順三	J .S.Cross	(選考中)
物質科学：物質機能材料	柴田・矢野	柴田 修一	矢野 哲司	(選考中)
材料工学：無機環境材料	大門・坂井	大門 正機	坂井 悦郎	大場 陽子
材料工学：無機環境材料	岡田・中島	岡田 清	中島 章	亀島 欣一
材料工学：複合材料	松尾・安田	松尾 陽太郎	安田 公一	塩田 忠

室	助手	技官・事務官
秘書室		福富 路子
学生実験室	桜井 修	大澤 栄也 吉川 英見 松山 勝美

平成14年度決算報告 平成14年4月1日～平成15年3月31日

収入	前年度繰越金	4, 243, 750円
	懇親会会費	200, 000円
	年会費・寄付金	1, 868, 500円
	銀行利子	310円
	合 計	6, 312, 560円
支出	役員会・総会・懇親会費	1, 006, 568円
	内訳 封筒・台紙・払込用紙・発送作業費	301, 077円
	郵送料	143, 640円
	払込手数料	525円
	総会・懇親会経費	250, 000円
	講演謝礼	20, 000円
	記念品代(目録代、送料含む)	223, 000円
	手提げ、宅急便代	5, 045円
	支部長(代理含む)交通費	48, 660円
	優秀論文表彰記念品代(2名分)	20, 500円
	写真代	4, 121円
	会員名簿管理アルバイト代	50, 000円
	同窓会印鑑作製代(表彰記捺印用)	15, 750円
	弔電代・花代	6, 150円
	通信費	10, 060円
	領収書、名札、文房具	5, 512円
	次年度繰越金	5, 218, 520円
	合 計	6, 312, 560円

平成15年度事業計画と予算

鈴木会長からレジメに沿って次の四つの事業計画の説明がありました。

情報伝達を活発化する

電子情報を活用し、多くの同窓からの提言や多くの情報の交換を迅速に行う。

名簿発行については平成16年度発行予定であるが、その進め方については多くの会員が満足していただけるよう十分検討してゆく。

全会員平等サービス

新設した「学年幹事」の方々の活躍を大いに期待したい。

広く、特に若い年代に多くの情報が行き渡るようにするとともに、意見をどしどしだしていただく様に持ってゆきたい。

地方との連絡強化を図るために、少額ではあるが今年度予算を配分した。講演会・見学会・親睦会等、各支部の事業展開を期待したい。

新事業計画

総会以外に、母校、藏前工業会との事業共催、あるいは支部と協力して会員相互の啓発に寄与する講演会・懇親会を開催したい。

同窓会事務局支援

母校では近づく独立法人化やCOE入選などの影響で学内組織の再編が進められており極めて多忙の状況にある。同窓会としても出来る限りの支援体制をとってゆきたい。

平成15年度予算(案) (千円)

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
年会費・寄付金	1,850	総会・関係費	1,000
総会・懇親会費	200	本部行事費	100
前年度繰越金	5,218	IT関係費	100
		支部関係費(含:補助金)	300
		事務局経費	450
		通常経費	100
		予備費	5,218
合計	7,268		7,268

新役員の紹介

役員

会長 鈴木 弘茂

副会長 中沢 三知彦、加藤 守光、濱野 健也、尾野 幹也

幹事 古賀 義根(九州代表)、名取 賢荘、山内 尚隆、堀江 鋭二(関西代表)、塚本 宏、石原 幸正(新任)、尾島 正男(関東支部長)、西 晴哉(新任)、武 孝夫(新任)、猪股 吉三、安田 榮一(新任)、清家 捷二(東海支部長)、柴田 修一(新任)、鶴見 敬章、安田 公一

学年幹事

昭和36年 高宮 陽一 耐火物協会

昭和37年 田中 満生

昭和38年 中川 順吉

昭和39年(41修、44博) 山岡 信夫 NIMS(旧無機材研)

昭和40年 金古 次雄 (財)理工学振興会 東工大TLO

昭和41年 井川 博行 神奈川工科大

昭和42年(44修) 山田 耕一郎 日立製作所

昭和43年 浅賀 喜与志 帝京科学大

昭和44年 玉上 佳彦 太陽化学

昭和45年(47修) 岡部 淑夫

昭和46年 二宮 秀明 TDK

昭和47年 尾川 正美 富士通

昭和48年 尾花 博 太平洋セメント

昭和49年 緒明 博 フォード自動車(日本)
昭和50年(52修) 井上 悟 NIMS(旧無機材研)
昭和51年 江上 浩二 コーニングインターナショナル
昭和52年 井上 悟氏が兼ねる
昭和53年(55修) 端山 潔 東陶機器
昭和54年(56修) 永井 達郎 コニカ
昭和55年(57修) 坂本 敏 旭硝子
昭和56年(58修) 茂 啓二郎 住友セメント
昭和57年(59修) 岸 和博 三菱セメント
昭和58年(H7博) 渡部 俊也 東京大

(以上の写真の多くは東工大 佐伯 淳氏 撮影)

以上

山内先生を偲ぶ会 報告 2002.10.16.

昨年10月17日に102歳の長寿をまっとうされた山内元東工科大学長を偲ぶ会を一周忌に当たる去る10月16日に大岡山キャンパス、デジタル多目的ホールで開催しました。

講演会には104名が出席され、先ず古川蔵前工業会理事長から先生が80年に亘り科学・技術・教育・産業の発展につくされたこと、初めて母校出身の学長(第5代)として学内の諸々の改善を図られ、政府の大学関係委員会の要職等を通じ今日の技術系大学の飛躍に先鞭をつけられたこと、蔵前工業会の発展に多大の貢献を果たされたこと等が紹介されました。

続く講演では鈴木弘茂名誉教授(本会代表)ならびに宗宮東工大名誉教授から先生のご業績とお人柄を偲ぶお話があり、鯉沼秀臣応用セラミックス研究所長、大門正機無機材料工学科教授ならびに吉村昌弘応用セラミックス研究所教授から山内先生のご専門とされた無機材料に関する最近のトピックスを話されました。

先生はまた科学技術庁・無機材質研究所(平成13年金属材料研究所と統合し独立行政法人の物質・材料研究機構となる)の設立と研究所の立ち上げにご尽力され、初代所長としての草創期の思い出が同研究所元所長の猪股吉三氏から述べられました。

2時間の講演に引き続いて18時半から生協第一食堂で約100名の方の参加を得て献杯と懇親の会が開かれました。

冒頭小川浩平副学長が海外御出張中の相沢学長に代わって挨拶をされ田中元学長は山内先生が学長時代に示された本学運営の舵取りの見事さを回想され献杯されました。卒業生の斉藤鉄夫衆議院議員の挨拶、末松安晴元学長、古賀義根TOTO相談役、木村茂行前無機材質研究所長等多数の方々のお話や、人間国宝島岡達三氏の健やかなお姿、さらには中沢三知彦氏の似顔絵配布や尾島正男氏の追善謡曲「江口」の披露などがあり、様々な方々が先生の御遺徳を偲びました。(西 晴哉)

参考 故・山内 俊吉先生を偲ぶ会 出席者名簿 (敬称略)

山内家 山内 尚隆 山内 辰夫 土屋 和子 土屋 博 中島 伸子 中島 英一
一般参加者(五十音順)

秋山 武久	赤尾 洋二	荒木 繁蔵	石井 敏彦	石川 誠	石毛 健二郎
石橋 倫幸	石原 幸正	井関 孝善	板橋 富二郎	猪股 吉三	宇田川 重和
遠藤 幸雄	太田 善造	大矢 克吉	岡田 清	小川 浩平	小坂 丈予
尾島 正男	尾野 幹也	尾花 博	加藤 誠軌	加茂 睦和	川上 辰男
川浪 重年	川村 久爾彦	神田 久生	菊地 央	木村 茂行	木村 脩七
木村 健	桑山 則彦	小池 敏正	小泉 健	小出 儀治	鯉沼 秀臣

古賀 義根	国分 可紀	小菅 智直	近藤 敬	齊藤 鉄夫	齊藤 安俊
佐藤 公彦	佐野川 建	柴田 修一	島岡 達三	末松 安晴	杉岡 富夫
鈴木 弘茂	鈴木 淑夫	宗宮 重行	大門 正機	高橋 俊郎	田上 嘉秋
武重 敏彦	武 孝夫	田中 郁三	田村 一弘	塚本 昇	塚本 宏
坪井 竜明	鶴見 敬章	道家 達将	中沢 三知彦	永田 孝行	中村 紀夫
名取 賢莊	成瀬 庸一	錦織 経治	西 晴哉	長谷川 安利	羽田 肇
浜野 健也	原田 賢	坂東 義雄	藤木 良規	古川 昌彦	堀江 鋭二
増山 明弘	松田 伸一	丸茂 文幸	三浦 友広	水谷 惟恭	南里 隼人
宮田 好子	森本 孝治	守吉 佑介	門間 英毅	安田 榮一	山岸 千丈
山田 雅実	山本 登	雪野 健	吉田 正明	吉野 成雄	吉村 昌弘
若松 盈	渡辺 遵				

以上



古川蔵前工業会理事長



鈴木同窓会会長



宗宮名誉教授



鯉沼応用セラミック研究所長



大門教授



吉村教授



猪股元無機材質研究所長



謝辞を述べる山内尚隆氏 (撮影は東工大 佐伯 淳氏)

平成 14 年度窯業同窓会東海支部活動報告 2002.10.11

平成14年度の東海支部の活動としては、平成14年10月11日、ホテルグランドコートにて、東海支部総会・懇親会を開催した。

当日は、同窓会会長鈴木弘茂先生にご出席を頂き、37名の会員の参加のもとで、盛会の内に終了した。

総会次第

1. 前年度支部長 松沢素一郎氏挨拶
2. 本年度支部長 牛田由郎氏挨拶
3. 議事
 - 1) 東海支部規約改正の件: 第5条 副支部長「2名」を「1または2名」に改定した。
 - 2) 平成 15 年度役員幹事選出の件: 支部長、1名、副支部長1名、幹事12名を選出した。
4. 新支部長挨拶
5. 窯業同窓会会長 鈴木弘茂先生挨拶

懇親会

鈴木会長初め、会員の情報交換などを行い、なごやかな中に有意義な同窓会となった。



窯業同窓会 行事報告 大倉陶園見学記 2002.3.1.

今年度東工大・窯業同窓会事業の一つとして、昨年8月の東陶機器に引き続き、2回目の企業見学会、「株式会社大倉陶園」の見学会を3月1日実施いたしました。皆様のご協力を得て、25名の方の参加を得ることが出来ました。また、本企画・実施に際し大変お骨折りいただいた日野新也様、森田直文様並びに大倉陶園社の今枝社長始め関係者の皆様ここに厚く御礼申し上げます。

同社は1919年創業の、日本はもとより世界でも最高水準の美術価値の高い磁器等を皇室・迎賓館始め各方面に提供している企業であります。約2時間にわたる懇切丁寧な工場のご案内を受け、同社の創業時の

“社訓”である「良きが上にも良き物を作る」考えは現在にも、しっかり受け継がれていることを感じました。また、今枝社長の「大倉製品には、物を越えた価値がある」、「これからは、物を伴うが、持つ楽しみ、見せる楽しみ、使う楽しみという“価値”を売る時代になる」等々極めて興味あるお話をうかがうことが出来ました。懇親会は全員参加のもと、東戸塚にある中華料理“丸勝”で大変な盛り上がりの中で行われ、予定時間もあっという間に経過しました。ご丁寧にも貴重な同社の製品をお土産にいただき、マイクロバスにて戸塚駅に向かい、次回再会を約し解散致しました。(武 孝夫記)



参加者の氏名 卒年は次のとおりです。(五十音順、敬称略)

安藤 巖(60学)	石原 幸正(57学)	石山 洋二(45旧学)	市川 英彦(43旧学)	稲垣 秀夫(59学)
尾島 正男(57学)	川浪 重年(50旧学)	菊地 央(50旧学)	木村 健(57学)	鈴木 弘茂(46旧学)
鈴木 由郎(55学)	宗宮 重行(52旧学)	武 孝夫(59学)	塚本 宏(54学)	坪井 竜明(57学)
豊田 万三(55学)	中沢三知彦(41旧学)	永易 憲三(41旧学)	西 晴哉(57学)	日野 新也(46旧学)
持田 典秋(63学)	森田 直文(56学)	山本 博孝(53旧学)		
東陶機器ドロノワクラブ	宮本 光春	柳川 博		

ご案内していただいた方

今枝 寛彦	大倉陶園	取締役社長
高瀬 進行	同	製造部生地工場工場長(78学)
矢崎 陽一	同	製造部技術室 係長(90学、92修)

以上



窯業同窓会 規約 (平成15年6月改正)

1. 本会は窯業同窓会と称する。
2. 本会は会員相互の親睦を図り、無機・セラミックス、工業材料関係の学会・産業界の向上発展を期することを目的とする。
3. 本会は事務所を東京都目黒区大岡山東京工業大学内に置く。
4. 本会は以下の事業を行う。
 - (1) 会員への情報の伝達
 - (2) 名簿の発行
 - (3) その他幹事会が認めた事業
5. 本会員は東京工業大学の窯業および無機材料工学関係者で組織し、会員は所定の会費を納入する。
6. 本会の経費は、会費、会員その他からの事業寄付金、その他収入で支弁する。会計年度は毎年4月に始まり翌年3月に終わる。
7. 本会は毎年総会を開いて以下について審議する。
 - (1) 会務の報告
 - (2) 役員の変更
 - (3) 規約の改廃
 - (4) その他幹事会が必用と認めた事業
8. 本会に以下の役員を置き、任期は2年とする。ただし再任は差し支えない。
 - (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 幹事 若干名
 - (4) 学年幹事 若干名
9. 会長、副会長および幹事は総会で選出する。学年幹事は同学年度の会員の推薦等により選出され会長が任命する。会長は本会を総理し、副会長は会長事故あるときは代行する。幹事は会務(庶務、会計)を処理する。幹事は本会の重要事項を審議し、地方、各職場、クラスの状態および本会に対する意見を本部に連絡する。学年幹事は会の運営について意見を提出したり、役員会に出席できる。
10. 本会は名誉会長および相談役をおくことができる。名誉会長と相談役は役員会で推薦して総会で承認を得る。
11. 本会に支部を置くことができる。支部は本部と連絡を密にして会の発展に協力する。

以上

窯業同窓会 内規

1. 正会員は次の範囲とする。工学部無機材料工学科の卒業生と大学院無機材料専攻(無機材料分野)の修了者(それ以前の、これに準ずる卒業生を含む)本学の教官、本学の他学科・他専攻の出身者、および本学以外の出身者で、本会との関係が深く、入会を申し込まれた方で総会で承認されたもの
2. 年会費は2,000円(名簿代を含む)とする。年会費を超える納入金はその年度の事業寄付金にあてる。
3. 情報の伝達とは会誌等印刷物の発行、電子情報の発信を意味する
4. 本部は総会の運営、および当該年度の事業・収支報告、次年度事業計画、同予算を立案し総会の承認を得る事とする。支部は支部総会の運営講演会、見学会、懇親会を行う
5. 幹事は後任幹事を推薦する際学年幹事から指名できる

以上

後記: 昔薄いけれどもB5版の立派な会報がありました。その会報に代わるものとして、ホームページを開設して3年目になります。インターネットに接続出来ない方にも平等のサービスを、ということで多くの方々のご協力がこの冊子ができました。最初の試みで至らぬことが多いのですが同窓会活動の概況をお知り頂ければ幸いです。

(編集・印刷 塚本 宏)